

Tokyo American Center and Keio University Joint Program
“Globalization and Innovation – Revitalization of Industries”

グローバル化とイノベーションー伝統産業の再生ー

PROGRAM <式次第>

MITのSuzanne Berger教授(Made in America プロジェクトの主要メンバー)をお迎えし、教授による世界各地における研究成果を交えながら、グローバル化とイノベーションについて考えます。

Berger教授の総括的な基調講演の後、教授が直前に訪問された、^{こいしわらやま}小石原焼で有名な福岡県東峰村と高品質テレビ会議システム(Digital Video Transfer System, DVTS)をつなぎます。同村では、慶應義塾大学飯盛研究室が中心となり「情報技術による伝統産業の活性化」を推進しており、さらに本イベントにあわせ産学官が連携しデジタルデバインドに悩む同村に高速回線を開通させ、日本の誇る伝統技能を住民自らが発見するとともに、世界に発信しているプロジェクトを展開しています。

グローバルな競争に勝ち抜くためにも、歴史に支えられた技能の再発見と、新しい時代の文脈の中での展開が重要であるという点で、Berger教授と慶應義塾大学のチームの見方は一致しています。会場ではその具体的なあり方について、Berger教授に参画いただきながら、4地点(会場、福岡県東峰村、福岡県庁、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス)での遠隔ディスカッションを展開します。

◇日時 5月25日(金) 14時30分ー17時30分

◇場所 慶應義塾大学 三田キャンパス 東館 6F G-SEC Lab

【港区三田 2-15-45、地図 <http://www.gsec.keio.ac.jp/access.html>】

◇プログラム(同時通訳付)

開会挨拶 東京アメリカンセンター 館長 Jeffrey Jamison
慶應義塾 常任理事 坂本達哉

第1部 基調講演

14:45-15:25 講演 (Suzanne Berger 教授)

15:25-15:35 コメント (國領二郎教授)

15:35-15:45 Q & A session

-----休憩 (15:45-16:00) -----

第2部 遠隔ディスカッション

ー会場 (三田)・福岡県東峰村・福岡県庁・湘南藤沢キャンパスー

16:00~16:05 イントロダクション (國領二郎教授、飯盛義徳専任講師)

16:05~16:10 麻生渡 福岡県知事メッセージ

16:10~16:30 福岡県東峰村からの報告

16:30~17:25 4地点ディスカッション (モデレータ: 國領二郎教授)

17:25~17:30 まとめ

主催: 東京アメリカンセンター、慶應義塾大学

後援: 福岡県東峰村、福岡県

協力: 九州電力グループ、九州大学情報基盤センター

資料

1. 式次第(本ペーパー) 2. Berger教授講演資料

参考資料

①福岡県東峰村資料(3点) ②ITによる東峰村の活性化戦略研究会報告書

③慶應義塾大学創立150年記念 関係資料(3点)

講師略歴

Dr.Suzanne Berger (スザンヌ・バーガー教授)

マサチューセッツ工科大学(MIT) ドーマン・スターバック政治学科教授

- ・1967年、ハーバード大学政治行政学大学院で博士号取得。
- ・先進工業国、特にヨーロッパ諸国における政治経済を中心に研究し、最近ではヨーロッパとアジアにおける生産のグローバル化を主要な研究分野としている。
- ・MIT 産業生産性調査委員会の主要メンバーとして、1980年代の米国製造業の弱体化と日独等を比較検討した”Made in America: Regaining the Productive Edge”(1989)を共同執筆(邦訳:アメリカ再生のための米日欧産業比較,1990)。ほかに、”How We Compete: What Companies Around The World Are Doing To Make It In Today's Global Economy“(2006)。(邦訳「MITチームの調査研究によるグローバル企業の成功戦略」)等。



Dr.Jiro Kokuryo (國領 二郎教授)

慶應義塾大学総合政策学部教授、慶應義塾大学 SFC 研究所長

- ・1982年東京大学経済学部経営学科卒業、日本電信電話公社を経て1992年ハーバード大学で経営学博士号を取得。
- ・IT技術を生かしたビジネス・社会モデルの構築の研究を専門とし、『オープン・ネットワーク経営』(1995)に対し、第11回テレコム社会科学賞他。
- ・IT戦略会議など政府の様々な懇談会、委員会に参加、政策への直接的間接的提言を行う。住民参画型の新たな地域情報化のあり方についてビジョンを策定するとともにICTの発達とビジネス・社会システムの変化における新しい価値創造のあり方を示したことに対し、2005年に総務大臣表彰を受ける。



東峰村と慶應義塾大学のコラボレーション

福岡県東峰村と慶應義塾大学飯盛研究室では、2006年度「ITによる東峰村の活性化戦略—東峰村元気プロジェクト」に共同で取り組みました。ITを活用した地域活性化プロジェクトとして注目されている住民ディレクター(映像制作プロセスを通じた総合的な企画力の養成)、インターネット市民塾(いつでも、どこでも、だれでも講師、受講生になれる学びの共同体)、鳳雛塾(地域をテーマにした教材を活用したディスカッション教育による戦略的思考の涵養)の活動を東峰村で実践。福岡県で唯一、ブロードバンド環境のない村が、たった数ヶ月でどのように変化したか—本日のプレゼンテーション、議論をご期待下さい。またBerger教授が東峰村の誇る小石原焼のファンでいらしたというご縁で、2日前には村を訪問され、あわせて慶應義塾大学Cyrus Rolbin研究室を中心に、小石原焼を住民ディレクターの手法で紹介するwebサイトも制作しました。Berger教授来日・来村を機に、東峰村と慶應義塾大学とのコラボレーションがますます広がっています。



小石原焼紹介動画を掲載したページ <http://abcjp.net/>

SFC市民塾 <http://sfc.shiminjuku.com/home/index.html>

高品質テレビ会議(DVTS)システムについて

東峰村と東京会場のテレビ会議にはDVTS(Digital Video Transport System)を利用しています。DVTSはDV(Digital Video)の配信を、IPネットワークを介して行なうためのアプリケーションです。WIDEプロジェクト(注)は1998年より開発を進めており、同年フロリダのオーランドで行なわれたSupercomputer Conferenceでデモンストレーションを行ないました。

現在、DVTSは様々なオペレーティングシステムに対応しており、IEEE1394インターフェースを介してPCとビデオデッキ、カメラなどを接続することで、高品位な動画配信システムを手軽にかつ安価に構築することを可能にしています。また、これらに加え、DVTSがカメラやビデオと一体となったハードウェア化や組み込み型の開発も行なっています。

※ 注 WIDEプロジェクト

1988年(昭和63年)に、学術研究を目的として開始された日本のインターネット研究プロジェクト。慶應義塾大学環境情報学部 教授 村井純が代表を務める。

※ URL: <http://www.dvts.jp/> <http://www.wide.ad.jp/>